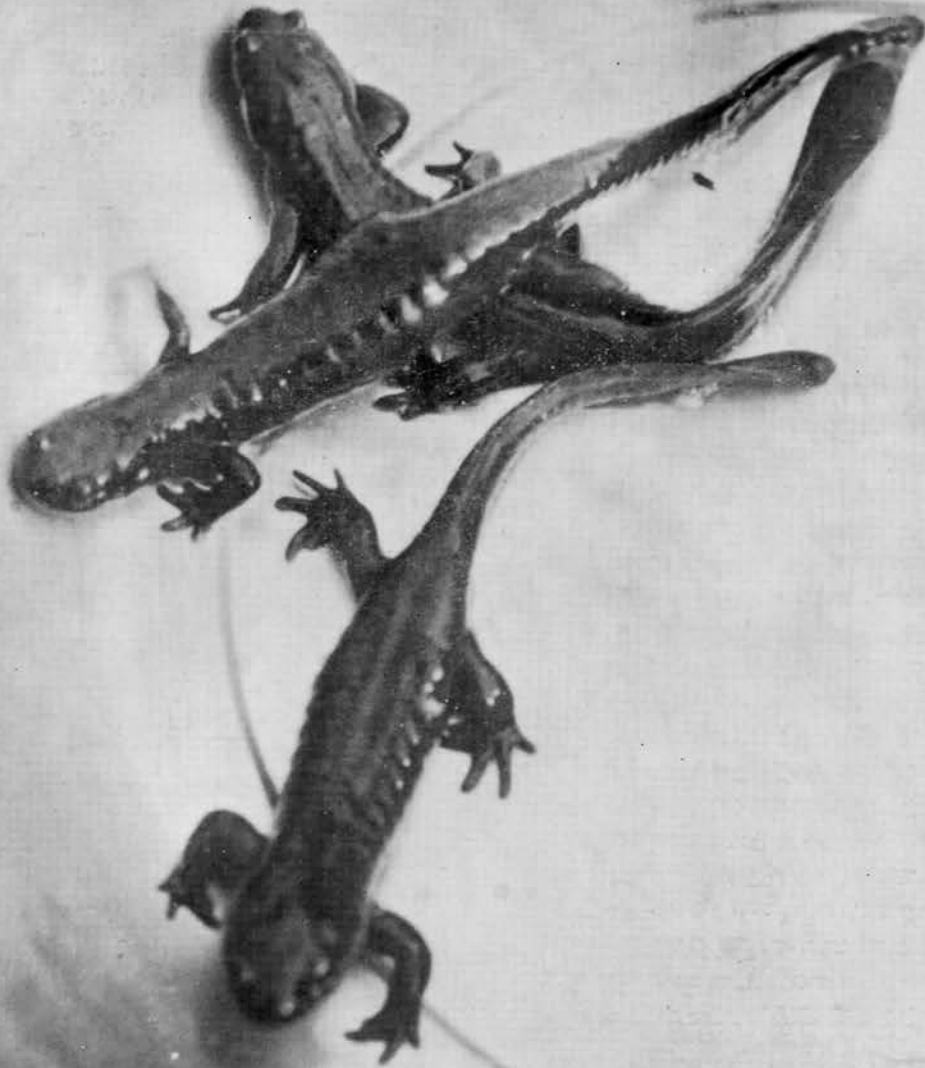


毎月1回20日発行

(昭和31年3月28日第三種郵便物認可)

やま博物館

編集責任者 大町山岳博物館



くろさんしょうお
Hynobius nigrescens Stej.

クロサンショウウオは本州中部以北、東北地方に分布し、特に高山の池や沼に棲んでいます。平地では四月上旬、高山では七月上旬までに、夜半になると幾組もの雌雄が集つてきて産卵します。【写真は神城村産】

NO. 3 1956年4月20日

大町山岳博物館後援会 発行



クロサンショウウオはアケビの房のような卵塊を産む。(4月13日・神城村にて)

くろさんしょううお(黒山椒魚)

クロサンショウウオは一見トカゲのような形をしています、ヘビやトカゲとちがって皮ふにうろこがなく、前足の指は四本しかありません。分類学上では兩棲類(蛙やイモリの仲間)の有尾目(イモリとサンショウウオ)に属します。日本には九種類程のサンショウウオがいますが、当地にはクロサンショウウオとハコネサンショウウオがいます。イモリは背中が真黒で腹は赤と黒のしま模様ですがクロサンショウウオの背はイモリよりも淡く、腹は青味を帯びた灰褐色です。クロサンショウウオは本州中部以北、東北地方に分布し特に高山の池や沼附近に棲んでいます。大町附近では爺ヶ岳、鹿島槍、八方山、天狗原、梅池、風吹山、小谷温泉鯉池等の池沼において多くみかけます。神城村沢渡から佐野へかけての湿地は、この地方における最も標高の低い分布地です。食物はカ、ハエ、ミミズなどの小動物です。平地では四月上旬、高山では七月上旬までに池や沼の中に外皮透明、内皮乳白色をしたアケビの実のような卵塊を二房づゝ産みます。卵塊の中に黄褐色、球形の卵がたくさん入っています。卵からかえった幼生(オタマジャクシ)は始めえらで呼吸した後、変態して親になると肺と皮ふで呼吸しますが産卵期などには水中に長時間もぐることができる。なお、ハコネサンショウウオは本州、四国、九州の山間溪流に棲んでいて、指の先には黒い角質の爪をそなえています。サンショウウオの黒焼きはカンの薬として有名です。地方によってはこれを生で丸飲みにするところもあります。



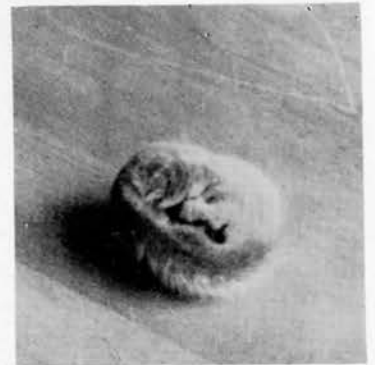
中羽化
な春の日羽化する。(四月一七日・飼育
ヒメギフチョウは長い蛹期を過ぎて喉か

ひめぎふちょう

里にツメイヨシノの花が咲き始める頃、山足の杉林の下には紅色のカタクリや紅紫色のスミレサイシンの花が咲きほこっている。陽光が樹林の内部まで照らす晴天温暖の日、満開のカタクリの花から花へ、安曇野の春を代表するのに最もふさわしい可憐なヒメギフチョウが飛んでいる。このチョウは棲息地の海拔にもよるが、四月下旬から五月にかけてたゞ一回出現するだけで、この時期を外すと、一年待たなければ見ることができない。越冬した雌から現われた母蝶は樹陰に茂るウスバサイシンの葉の裏に直径1mm足らずで美しい青緑色をした真珠のような卵を幾つか並べて産みつける。卵からかえった幼虫は黒色で長い毛が生えている。同じ属の近縁種であるギフチョウの幼虫は全体が黒いが、ヒメギフの幼虫は気門に九つの黄色い点があるのでたやすく見分けられる。幼虫は初めのうちウスバサイシンの葉の裏に群棲してこの葉を食べて育つが後に散らばっていき

35日程して6月後半には蛹になる。枯葉の下や木の根本・石の上などで10ヶ月をすごし冬を越した雌は次の年の春、落葉樹の芽ぶきに先だって黄色に黒しまの美しいチョウとなって現われる。

ギフチョウは日本特産であり、温暖な地域の低山地に多く、富山・岐阜・愛知の三県より西に分布する。ヒメギフチョウは本州では中部山地より東のギフチョウを産まない地域に見られ、この二つの種類は混棲することほ少ない。両種の分布限界線が北安及び大町を通っており、大町市平区黒沢及び北城村黒藁附近は両種の混棲地として学問的に注目されている。北安曇郡下及び大町市ではヒメギフはウスバサイシンをギフはミヤマカンアオイをそれぞれ食草とし、混棲地には両種の食草が見られる。



冬眠中のヤマメ(4月15日撮影)

やまね

Japanese Dormouse

この愛らしい小動物は日本特産で一属一種の貴重な動物である。一見リスに似ているが、はるかに小さく、淡褐色の背中の中央に黒褐色の縦線が走っていて、尾は扁平である。800M—1,800M程の高地に多く、時に人家附近にも見られるが、小形なのであまり人に知られていない。樹の上や森林に棲んでいて、風間は木の洞に眠り、夜出て活動するが、大変スローモーションである。ネズミ、リス、ウサギ、ムササビなどと共にキツ樹類に属し、木の実や小昆虫などを食べている。冬の間は木の洞などで、まん丸く毛まりのようになって冬眠する。年一回または二回繁殖するといわれているが、生態はまだ不明な点が多い。26年7月1日、大町南高の集積登山の時、鳥帽子岳の雪渓で雪の中の体の入るだけの穴の中に何も敷かずじまっていたことがある。31年4月18日松川村馬羅尾国有林(標高1,140M)で宮田福次氏の捕った例でも、ヒノキ林附近の雪の上の体の入る程度の穴の中にねていた。31年3月30日同じ馬羅尾国有林(標高1,140M)で捕れた例では、積雪1尺5寸のヒノキ造林地の中のサワラのかさった株から飛び出した。現在博物館では馬羅尾で捕れた二頭をリンゴ、エゴマ、アワなどで飼育している。



ガク片が花びらのように変つたキクザキイチリンソウの花は日を受けて平に開く



濕原の雪の消えぎわには坊さんが坐禪をしているような黒紫色の紫に包まれたザゼンソウの花が咲き出す。

春の植物

私達がちやうど今頃庭先で目のつく草花としてハコベがありますが、長い莖の頂や葉腋に白い可憐な花をつけるこの植物は、春の七草の一つとして昔から愛されています。また年中絶えまなく花を咲かせ何時でも身近にみることができます。庭先や荒廃地などの一隅に黄色の花を咲かせるノボロギクや、濃藍紫ある藍色の花をつけるオオイヌフグリの目につきますが、これらは欧州原産で明治初年日本に渡来し、今ではいたるところに自生している帰化植物で、フキノトウ、カワヤナギと共に春をつける代表的な植物です。暖かい日ざしを受けて田圃の畦など歩くと、幾枚もの大きな鱗片状の葉に包まれて地上に顔を出しているフキを発見すると思いますが、この花は小花が集って一輪をなしているが雄花は帯黄色、雌花は紫色をおびています。春の野のシンボルと言われているタンポポの黄色も鮮かですが、四国・九州では白い花のシロバナタンポポが多くみられることは分布上大変面白いことと思います。イヌナズナも黄色の花を咲かせ、また小さい十字の白い花をたくさんつけるナズナをゆでて喰べたあの独特な香と味は春の七草の一つとして誰からも親しまれています。今は大分少くなっているキランソウは道端や土手でみ

られる多年草で、全体に白い毛が生えていて、濃紫色の唇状の小さい花をつけます。東山方面の落葉林の日當りのよいところにはシユンランが直径三〜五種の淡黄緑色の花をつけており、松杉の生えているやや薄暗い湿った場所にはカタクリ粉で知られているカタクリが、濃赤紫色の直径四〜五種もある見事な花をつけ、葉には白と紫の斑点があります。佐野坂一帯の湿ったところには野生のフクジュソウが栽培種のものと同じ黄色の美しい花をつけています。また多年草で葉は短い莖から四方にむらがりでているシヨウジョウバカマが白、淡紅色の花を咲かせています。この外黒紫色の花をつけるエンレイソウや、やぶの下など好んで咲くキクザキイチリンソウは淡碧色のガク片が十枚程あり葉はこまかに切れ、アズマイチゲは花が白く葉は二度三裂しています。今年総合調査を予定している居谷里の湿地へ行くと、今盛んにザゼンソウが他の植物ではみられない奇形の花を水端に開いていますが、これは花ではなく、実際の花はこの中にある棒状の莖の上に

無数につき、その心棒をとりまいている仏焰苞という暗赤色の匙状のものが私達の目をひくのです。また達磨大師が座禪の形に見立ててこのような名前をつけたと言われており、やがて花がすむとその後には長大な葉が伸びてきます。このザゼンソウと最も縁の近い植物にミズバシヨウがあり、苞の色が純白で五月中旬頃咲きだします水のほたり或は水中で開期を待つリウキンカ、ミミカキグサ、モウセンゴケ、サクラソウ等それぞれその時期において訪れる人々の目を楽しませてくれます。また違った面からみてカラマツの芽吹きやヤブソテツ、ヤマドリゼンマイのシダ類、カラカサゴケやチヨウチンゴケの蘚苔植物も人の目をひくことと思います。

春の草花の中には以上のような植物がたくさんありますが、多年かゝって大地に根を張り息長く成長していくものもあれば、ひと春の生命をいかに有効に使い果すかをあせるように、生長を急ぎ繁殖の手段をめくらすものもあり、こう言った自然現象は私達の深い関心を何時も呼び起しています。



雪どけと共に田のあせや湿地にフキノとうが頭をもたげる。佐野坂以北ではこれをチヤンメロという。



野兎の被害年間7億円

博物館では去る4月15日大町営林署と共催で「野兎狩り」を白馬岳山麓沼地附近で行った。参加者はハンター、本館研究会員等總勢28名で本年初めて使用されるウサギ網によって行われた。特に今の「野兎狩り」は①本館附属動物園飼育用 ②映画「アルプスの鷲異」の撮影被写体入手 ③害獣駆除 ④生捕法の研究 ⑤生態観察等の目的を狙い、生捕りを主眼としたものである。野兎の害は全国で年間7億円にも達すると云われ、特に植林後5年位までのカラマツ、スギ等の幼樹の新芽を喰むと云われる。大町営林署ではこの野兎駆除に毎年4万円の予算を計上、野兎狩り、猟銃、兎わな等で2~3月頃、その絶滅に乗り出している。(写真はウサギ狩風景4月15日)

野鳥を愛護しよう

— 5月は愛鳥週間 —

5月10日から16日までは愛鳥週間(バード・ウィーク)です。野鳥は昔から詩、画、伝説などに多く伝えられ、狩猟にはなくてはならないものです。朝夕の小鳥の美しい声や姿は私たちの生活にうるおいをあたえてくれます。森林や農作物の害虫を駆除し、林業、農作物の増産をたすけてくれます。又水産業にも有益なものです。私たちはこの週間に機会に野鳥に親しみ、その知識をたかめることが大切です。みだりに小鳥をとったりそれを飼育したりしないように、小鳥を自然のまゝにして大いに増やし、愛護していきたいものです。国では野鳥を保護する方法として特別な鳥やそのすんでいる区域を天然記念物に指定したり、狩猟法によって狩猟できる鳥、区域、期間、用具をきめてあります。しかしそれだけでは実用はできません。私たちは山の本を切ったり折ったりしないで、なるべく小鳥のすみよい環境にしてやりたいと思います。博物館では愛鳥週間に、野鳥の生態、巣箱と小鳥、野鳥の分布などについて特別陳列を行うことになっております。

会員室

本欄は会員の皆さんに遠慮なく使っていただくために設けました。御希望事項や連絡事項を編集室まで

お寄せ下さい。

○…博物館後援会の機関紙「やまと博物館」は東京の同郷人に大へん喜ばれています。某高校では今年の夏北ア山麓へ是非植物採集に行きたいと言っています。東京では後援会支部をつくる空気がありますが、大町の方も頑張ってください。○…編集について希望をひとつ、写真はなるべく多く入れて下さい。時々山の写真ものせて下さいれば幸いです。後援会の会員名簿なども次号でお知らせ下さい。会員同志の連絡にスペースをとれないものでしょうか。(東京都衆院議員会報 須沢 清)

お知らせ 本紙の購読を御希望の方には実費 1部10円でおわけします。但し遠方の方は郵送料の実費をいただきます
大町山岳博物館後援会

後援会員募集

博物館後援会の会員を募集しています。年額千円を納める団体ならびに、年額三百円以上を納める個人を正会員といたします。会員には次のような特典があります。

- 1、博物館の諸指導行事を通知し参加の便をはかる。
- 2、毎月「やまと博物館」を配布する。
- 3、団体には講師、際導者派遣の求めに応じる。
- 4、博物館に支障のない限り、博物館の資料(標本、図書、写真、図板等)器具の借り出しをあっせんする。
- 5、その他博物館で種名同定、研究指導など諸種の便宜をうけるあっせんをする。
- 6、いつでも博物館を無料で観覧できる。

【博物館だより】

3月20日撮影隊のクマ・キ

ツネ入舎25日資料収集(動物東山にて) 26日オナガガモ雌雄各1体入舎(東京黒田長礼氏より) 28日居谷里調査農業部門打合せ 29日居谷里湿原下見(学芸部) 30日社地区古文書調査(学芸部) 31日コグマ雌雄各1入舎(撮影用)、日本アルプス撮影隊来館 4月1日本館主催市民映画観賞会(公民館)、撮影計画打合せ 5日30年度協議会最終回開催 8日ニッコウムササビ等動物資料調査(八坂村) 10日博物館概要31年度発行 14日ヤマアマガエル産卵状況調査(居谷里、学芸部) 15日第2回ウサギ狩り(沼池尻) 17日カワガラス、カワセミの営巣状況調査(社地区)

(今月の寄贈) ノウサギ胎児1体 大町市白塩町村越伯夫氏、ノスリ生体 大町市南原町大日方健氏、ヤマネ生体 松川村川西宮田福次氏、ニッコウムササビ生体 八坂村矢下降旗本夫氏、ヤマネ生体 松川村川西宮田福次氏、ニッコウムササビ生体 広津村萩達今朝保氏

「日本アルプスの鷲異」という動植物生態映画の撮影が4月から本館の協力で開始されています。撮影に当たって下記につきみなさんの協力をお願いします。

◎市及び郡内でリス、カラス、カケス、その他鳥獣類の巢をみつけたら、ただちに博物館へ御連絡下さい。

◎ウソ、カケス、アトリ等の野鳥を飼育している方や捕獲された方がありましたら御提供下さるよう御願いたします。以上について連絡或いは提供して下さい方には薄謝を呈します。

編集後記

▲緑の週間に長野県の植樹祭が本館の附属植物園で盛大に行われました。本館では今年も植物園の整備を行います。県下から集った関係者は植物園から眺めた北ア連峯に感嘆してました。県外に活躍される郷土の皆さんに、北アの写真をと思いましたが、本号は長い雪の生活からとびだしてきた動植物について企画してみました。▲東京の後援会のみなさんから種々激励のお便りをいただいております。来月号は愛鳥週間に因んで、北ア山麓に棲む野鳥について編集してみたいと思います。近く後援会の總會を開いて今後の事業計画をたてたいと思いますが、本紙については御感想、御希望など、どしどし御寄せ下さい。

やまと博物館 No.3 1956.4.20発行
編集発行人 大町山岳博物館
発行所 大町山岳博物館後援会
長野県大町市神楽町電話211番
印刷所 信州印刷株式会社